

一般社団法人日本ダイバーシティ推進協会 活動視察

●日時：平成 26 年 8 月 30 日（土）10：00～13：30 頃

●場所：久屋大通公園／織部名古屋店 2 階

【一般社団法人日本ダイバーシティ推進協会について】

「違いを価値に変える」を理念に、平成 23 年に内閣府地域社会雇用創造事業 iSB 公共未来塾社会的事業コンペティションの採択を受けて活動を開始しました。

現在、企業の抱えるメンタルヘルスの課題を解決する「コミュニケーション研修事業」や、就労困難を抱える方やご家族等の相談を行う「就労支援・相談事業」、属性の異なる人々を結び付けお互いの違いを価値に代え、社会に表現する場づくりを行う「共感留学プログラム」という事業を展開しています。

具体的には、暗闇の中で味覚と嗅覚のみで食事を味わい、食べ物本来の味を再発見する「暗闇晚餐会」の実施や、東山植物園にて実施された暗闇ツアーのアテンド養成に協力してきました。

【活動の様子】

日陰に入ると風が気持ち良く感じた 8 月 30 日、一般社団法人日本ダイバーシティ推進協会が実施した『音探しワークショップ』の活動視察に伺いました。

久屋大通公園近くの地下鉄出入口を集合場所とし、子供から大人まで視覚障がいのある方を始め 20 名近くが集まり、ワークショップが開始されました。

午前中は、久屋大通公園内を歩き、気になった音と場所を IC レコーダーとカメラで記録していく音探しを行いました。

まずはグループ分け。視覚障がい者やアイマスクを装着し視覚を遮った方（このワークショップでは“ポケモン”と呼ばれていました）とそれ以外の方（“ポケモンマスター”と呼ばれていました）がペアとなり、時折、進行役がペアの相手を見つけたかどうか拍手で確認していました。拍手の音だと、“ポケモン”もみんながペアを組めたかを知ることが出来ます。



参加者が集合した様子

また、進行役から注意事項として、“ポケモン”のペースで歩き、段差、人通りなどの状況を“ポケモンマスター”が声をかけながら行動してくださいと伝えられ、それにより“ポケモン”も安心して歩くことができ、お互いのコミュニケーションも取りやすくなっていたようでした。



公園へ移動している様子

公園へ到着し、音探しスタート！公園内には木のせせらぎや鳥の鳴き声、枯葉を踏み拉く音、人工川の流れる音、側溝に被せられたグレーチングに物が当たる音、久屋大通公園の地下を走る地下鉄の音など、様々な音が隠れていました。

しかし、公園を離れてしまうと、そこは名古屋最大の繁華街のため建設工事の音、自動車交通音、まち行く人達の話し声などの音も聞こえていました。

もし、どの音を記録しようか困った時のために封筒が渡されており、その中には音を見つけるヒントが書かれており、みんな「ここぞ」という時に使っていました。



音を記録している様子

また、時には公園をつなぐ橋を上がり風を感じたり、休憩をしながらケヤキの葉の匂いや葉触りなどを手に取って感じるなど、様々な感覚を使っの体験も織り交ぜていました。



葉の感触を確かめる様子

昼の休憩をはさみ、午後からは久屋大通公園の近くにある織部名古屋店の2階のカフェスペースにて、午前中に記録した音や写真を使って振り返りを行い、その中から音を選びタイトルをつけるワークが行われました。

場所を変えて改めて音を聞くことで、音の感じ方も違って来るかもしれません。



音の振り返りを行う様子

今回の活動をとおして、参加者同士の距離が縮まり、お互いを知ることで協力し合えるということや、普段とは違った目線での公園の楽しみや魅力を感じることができたため、今後も多くの方々にこのような取り組みを広めていくことを期待します。



～ばやしの感想～

視覚障がい者と行動を共にしたり、目が見える方がアイマスクを付けて視覚障がい者と同様の状態となって歩くことで、視覚障がい者の不安や、その不安を取り除くための配慮を考える機会となる、とてもよい活動だと思いました。今後ともこの活動を継続的に行うことで、互いの理解を深め活性化されることを望みます。



PECoの感想

今回のワークショップを通じ、状態の違う者同士がペアになり、お互いを知り、協力して物事を進めることで、今まで気づかなかった新たな気づきや発想が生まれると気づかされました。

多様な人々が互いの強みや弱みを知り、尊重し、繋がることで生まれる新たな気づきや発想は有意義で楽しいことであると感じ、今後の活動やまちづくりになお一層、活かされることを期待しています。